

令和6年10月1日

6年生保護者の皆様

稲美町立母里小学校
校長 木村 明宏

令和6年度全国学力・学習状況調査結果について

平素は、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

さて、令和6年4月18日に「全国学力・学習状況調査」が、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されましたので、その結果をお知らせします。

なお、序列化や過度な競争につながるような数値表現でのお知らせではないことをご理解くださるようお願いいたします。

本校児童の学力は、各教科の学習指導要領の内容によっては、県・全国平均と概ね同程度である部分と、学力の定着に課題が残る部分に分かれています。その要因は、「学力の二極化」であり、筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養う教科である国語にこの傾向が表れています。

各教科の観点別の成果と課題については、以下のとおりです。この結果を参考にして、各教科の授業改善に取り組みます。

< 国 語 >

【知識及び技能】

文中の主語と述語との関係を捉えることや情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して正しく使うことができています。話し言葉と書き言葉との違いに気付くことには課題があり、「読むこと」や「書くこと」の指導事項などと関連を図りながら、複雑な構文や誤解されやすい同音異義語を避けるなどの話し言葉の表現上の特徴を理解できるよう話し合うといった言語活動を工夫します。

【話すこと・聞くこと】

目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題があります。話し手の目的や意図、聞き手の求めていることに応じて、話す際の材料を集め、分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討できるよう指導していきます。

【書くこと】

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることはできています。目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られるので、文章全体に一貫性があるかを確かめたり、事実と考えを混同して書いているかを確かめたりする学習場面を設定するなど指導を工夫します。

【読むこと】

人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることはできています。登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを総合して判断できるようにすることが大切です。「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読み、物語の全体像を具体的に想像するといった学習の充実を図ります。

< 算数 >

【数と計算】

問題場面の数量の関係を捉えて式に表したり、除数が小数である場合の除法の計算をしたりすることはできています。計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を能率的に処理できる場合があることに気づき、計算を工夫したり、筋道を立てて答えの求め方を説明したりできるよう指導していきます。

【図形】

直方体の見取図について理解してかくことや直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解することはよくできています。一方で、角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を記述することや球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題が見られます。身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積を求めるための必要な情報を判断できるよう指導の充実を図ります。

【変化と関係】

道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を記述することや速さの意味について理解することに課題があります。2つの数量の関係に着目し、速さなどの単位量当たりの大きさや割合の意味、表し方について理解を深めることが重要であり、日常生活の問題場面に照らし合わせてイラストや図、式に表し、求めた速さなどの単位量当たりの大きさや割合が妥当かどうかを判断できるよう指導していきます。

【データの活用】

円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることや二次元の表から必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することはできています。一方で、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを記述したり、示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断したりすることには課題が見られます。グラフのどの部分を基に必要な情報を読み取ったかを表現できるようにしたり、必要な数値を用いて処理したり式に表したりして日常生活の問題を解決することができるよう指導を工夫します。

< 生活面 > ※ 顕著な項目を紹介します。

「朝食を毎日食べる」「同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きる」といった基本的な生活習慣が確立している様子が見られます。基本的な生活習慣に影響を及ぼす携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方については、「家の人と約束したことを守っていますか」という問いに対して「きちんと守っている」と回答した割合が高い一方で、「守っていない」と回答した割合も一定数ありました。スマートフォンなどの情報機器で動画やゲームをする時間が長くなる傾向も見られます。学習については、前向きな回答をした児童が多く、学習の有用性や自分の将来や社会の役に立つという思いを抱いている児童も高い割合を示しました。一方で、学習に苦手意識をもっていたり、粘り強く問題に取り組んだりすることに課題が見られる児童もおり、「学力の二極化」が懸念されます。

規範意識、自己有用感等について、「自分には、よいところがある」「先生は、よいところを認めてくれている」「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたい」といった内容に肯定的に回答している割合が高く、自己有用感の高まりが、いじめを許さない、自分の力を十分に発揮しようといった意識につながっていることがうかがえます。学級や学年で、一人ひとりが自分の役割を持ち友だちの役に立ったり、自分がやり遂げることで自信をつけたりしていくことができるよう規範意識や自己有用感を高める学級づくり・学年づくりを学校全体に広げていきます。